

平成 28 年度 第 1 回 松田町 地域公共交通会議 議事録

日 時 平成 28 年 11 月 7 日(月) 15:00～16:35

場 所 町役場 4 階 4 A B 会議室

出席者 構成員：別紙「出席者名簿」のとおり(23 名出席・9 名欠席)

事務局：政策推進課

(吉田政策推進課長・柳澤経営戦略係長・重野主査・出口主任主事)

1 開会

【事務局】

会議に先立ち、本会の議事録・資料の公開を構成員に説明、了承される。

2 副町長あいさつ

3 会長・副会長選任

【委員】

古舘委員を会長、辻村委員を副会長に推挙する旨、発言があり、了承される。

4 会長あいさつ

5 協議事項

<資料 2：新松田・寄便の神山経由の取扱い>

【委員】

- この件については、自治会に持って帰って、神山の総意を確認する必要がある。ただ、説明があった蛇塚の件は、頻繁に起こっているのか、お教えいただきたい。

【委員】

- 添付している写真を見ていただければわかるかと思うが、この箇所については、大型トラックとすれ違いをすることはほぼ不可能な状態で、待ち合わせをしたことが過去何度もある。また、最近、蛇塚の方にゴミの処分場ができるとの話があり、以前より大型車の往来が増えることが想定されている状況である。

【委員】

- 神山の別系統は、どこからどこへ出ているかを教えていただきたい。

【委員】

- 神山を南下して、新松田駅から国府津、もしくは小田原へ行く路線が出ている。

【会長】

- 神山経由で、小田原等へ行く路線を利用することができる状況である。そこで、

富士急湘南バスとしては、神山経由を廃線にするか、便を減らしたいという意向である。一方、神山の自治会としては、この場で決めずに一度、持ち帰って総意を確認したいとしたところである。事務局で整理していただいた案が3つ示されているわけであるが、ご意見があれば、お願いしたい。

【委員】

- 3択で自治会に持ち帰るのは無理がある。現状を見ると、確かに、バスを運行するのが厳しく、費用対効果が合わないのは理解できる。ただ、籠場橋の方に1本化してしまうと、高齢者にとって、籠場橋まで移動しなくてはならず、大きな負担になると考える。費用対効果だけではなく、福祉的な側面からも判断する必要があるのではないか。ただ、路線バス自体も乗車人員が少ない状態であり、高齢者のマイカー運転が増えているという実情が変わらない中、人々は恒常的な公共交通システムを作っていこうという気持ちにはならないのではないか。

【会長】

- 神山自治会の意向を踏まえ、この場で結論を出すことは難しいと思うので、事務局で示された②か③の方針になるかと思う。神山自治会の意向としては、③の内容が一番近いかもしれない。この件については、一度自治会に持ち帰っていただきまして、富士急湘南バスと自治会、それから町とで相談していただき、別途検討していきたいと思いますが、如何でしょうか。

【委員】

- 異議なし。

【委員】

- 今回の乗降調査では5日間だけであったが、必要に応じて、利用実態も含めた状況調査をもう少し長い期間で実施していきたいと思う。

【会長】

- 検討された結果については、町役場や会長、副会長に情報提供をいただき、その上で当該会議を再度開催する必要があるかどうかを判断したいと思う。

【委員】

- 神山のすれ違いが困難な件については、県の土木事務所との調整の中で、道路改良といった対応もできるかもしれないので、具体の場所をお教えいただければ幸いである。

【委員】

- 実際の場所は、蛇塚の交差点を右折したところから、小田急線の踏切を過ぎた辺りまでの区間であり、バスとトラックは勿論、バスと乗用車でもすれ違いが厳しい状況である。

【委員】

- 本日、出席いただいている方の中で、具体の道路幅員が分かる方はいるのか。

【委員】

- 蛇塚の交差点から小田急線の踏切までの区間については秦野市に属する範囲となることから、平塚土木事務所の管轄になるため、本日のメンバーでは具体的な数値は分からないかと思う。

【委員】

- それでは、後日、分かったら、教えていただきたい。

【委員】

- 承知した。

<資料3：寄方面にかかる終バス時間の繰り下げの検討>

【委員】

- なぜ、金曜日だけ22:40便があるのか、経緯は分からないのだが、確かに22:40頃は乗車される方は少ないと思う。あと、対応方針（案の1）に関しては、月曜日から金曜日について1便を増便するという考え方と理解してよいのか。

【事務局】

- そのとおりである。21時以降のバスを1便増やしてはどうかという趣旨で記載させていただいている。

【委員】

- そうであれば、平日は21時台に終バスということにしたらどうであろうか。あと、土日だけ19:20が終バスというのは、ちょっと早すぎるのではないかと思う。20:55位まで、もう1本あってもいいのではないかなと感じる。私も最終バスに乗ることはあるが、高校性や会社帰りの方も多く乗っていらっしゃる。寄の子ども達が少なくなっている中ではあるが、バスの利用に頼らざるを得ない状況の方も居るので、是非、終バスの時間を遅くしていただければと思う。

【会長】

- 平日、20:55便以降に増便するという考え方に関して、富士急湘南バスとしては、21時台にバスを導入しても構わないのか。

【委員】

- 本来ならば、終バスが出た後に、マイカーで迎えに来ている方がどちらの方面に帰られているかを調べなければならぬところだと思うが、我々の調査不足で確認できていない。実際に、ある程度の需要があって、採算が取れるのであれば、終バス時間の繰り下げについて検討をしなくてはならないと考えている。仮に、繰り下げを行うならば、21:45～21:50頃を想定している。

【会長】

- 増便する案については、利用者の利便性向上にもつながるので、富士急湘南バスの採算が合うならば、是非やっていただければありがたい。また、金曜日の22:40

便は居酒屋帰りのサラリーマン向けに設定したように記憶をしているのだが、利用実態が少ないのであれば、廃止を含めて考えてもいいのではないかと思う。皆さまからご意見があれば、伺いたい。

【委員】

- サラリーマンのために、22:40便は必要ない。無ければ無いで、それなりの手段で帰るはずなので、平日は21時台までであれば、十分ではないか。

【委員】

- 22:40便については、利用実態を勘案させていただいた上で、21時台の便についても検討を進めていきたい。

【会長】

- まとめると、少なくとも月曜日から木曜日については、21時台のバスを増便していただきたい。金曜日については、利用実態を考えて、22:40便をキープしながら、21時台のバスを増やすか、22:40便を廃止にして21時台のバスを終バスとするか、富士急湘南バスに検討していただくこととしたい。

なお、土日の19:20の時間帯については、如何であるか。私も実際に利用させていただいているが、正直、もう少し遅いのが1本あれば良いと思う。

【委員】

- 19:20発が最終便というのは早すぎるというご意見は感覚的には分かるが、実際に乗る人がどれだけ要るかといったアンケートを自治会に対して実施するなどして、どれくらいの利用者が見込めるかといった資料を持っていた方がよいのではないか。その他の部分についても、検討することとなっているが、併せて、意向を確認していった方が、富士急湘南バスとしてもやり易いと思う。

【委員】

- アンケートという話が出たが、この場合は事務局の方で統一したものを作成していただくと大変助かる。自治会ごとであるとニュアンスが異なることもあり得るので、是非、統一したものを準備していただきたい。

【事務局】

- おっしゃるとおりであるので、事務局の方で、アンケートは作成させていただく。ただ、実効性を含めて、実施方法は検討させていただきたい。どのようなスキームでやるかに関しても別途ご相談させていただきたい。

6 報告事項

<資料4：地域公共交通対策>

【委員】

- 公共交通対策ということで、別の切り口で話をさせていただきたい。神山地区の住民の生活範囲としては、大井町まで歩いて行くことが多い。今後、上病院、文化

センター、大井町などを回る循環シャトルバスについても、検討していただければ幸いである。循環シャトルバスであれば、神山地区の方々の実態に対応できるのではないかと思う。

【事務局】

- 松田町としては、循環シャトルバスを走らせるといった考えはないが、大井町が「循環福祉バス」というのを運行している。「循環福祉バス」に松田町も乗せてもらえるような調整をしていきたいと考えている。この件については、富士急湘南バスではなく、大井町で運行しているバスを利用していくこととして、検討を進めさせていただければと思う。

【会長】

- まちのりパス 65 や通学定期券助成事業は、大変評判が良いので、是非継続して取り組んでいただければと思う。

7 その他

<寄線の一部見直しについて>

(1) 長寿橋 5:50 発の新松田駅行きの始発停留所の変更について

【会長】

- 長寿橋を経由しないで、最初から寄に行かせてほしいとの提案かと思うが、ご意見があれば、お願いしたい。

【委員】

- 利用実態が0人であれば、必要ないのではないか。

【委員】

- 以前乗っていた方はお引越されしており、現在は利用者が居ないという状況のようである。いずれにしても、再度、流動調査をさせていただき、毎日0人ということであれば、最初から寄に行かせてほしいと思う。最初から寄に行くことで、乗務員の拘束時間も短くできるという部分もある。

【委員】

- 長寿橋のバス停から寄までの途中の停留所からは誰も乗ってこないという理解でよいか。

【委員】

- 途中の停留所から乗車する人はいない。

【会長】

- この件については、該当する自治会の方が欠席しているが、寄の方々からも「利用がなければ、必要ないのではないか」といった発言もあったことから、再度、調査をしていただき、検討していただきたいと思う。

(2) 新松田駅発 18:05～寄行き、寄発 18:35～新松田駅行きの減便について

【会長】

- 新松田発の 18:05 便については、18:05 便の前後に、17:40 と 18:45 の便があるので、18:05 便を減便したとしても、1 時間に 1 本のバス運行体制は確保できるので、18:05 便の運航を取りやめたいという趣旨かと思うが、意見があればお願いしたい。

【委員】

- 18:05 便は、平均して 4.5 人/便の利用があり、かなりの乗車があると思う。併せて、バス通学定期券の実績が 70 人いる中で、中学生や高校生が平均して使われていると想像できるのだが、そのあたりはいかがか。

【委員】

- 平均 4.5 人/便であるが、最大でも 10 人は利用していない状況である。ただ、あくまで数字だけであり、学生の利用がどのくらいあるかといったことは再度、精査をしてみないと分からない。当然、学生の利用ということはあると思う。なお、5 人以下の乗車率では、採算が取れないのが実情である。

【委員】

- 17:40 便、18:05 便、18:45 便に関して、そこを定期的に使っている学生がいるとすると、18:05 便が運行しなくなると、待ち時間に開きが出てしまう。実態をしっかりと調査していただき、状況を共有させていただきたいと思う。

【委員】

- 利用実態だけでいうと、17:40 便、18:05 便、18:45 便の中で、18:05 便の乗車率が一番少ない状況である。

【会長】

- 個人的に、18:05 便はよく使わせていただいております、学生も乗っているので、現状維持できたら、ありがたいなという気持ちもある。なお、期日について決めていなかったもので、具体的にいつまでに対応する予定かというところも確認させていただければと思う。

【委員】

- 富士急湘南バスとしては、年内を目処に調査を実施したい。

【事務局】

- 自治会に対するアンケートについては、12月16日（金）に開催予定である自治会長連絡協議会の際に説明させていただき、できれば、その日に配付もしていきたい。

【委員】

- バス路線を廃止する場合には、県の協議会にも関わることとなるので、ご留意いただきたい。

【委員】

- 神山のバス停は、20 年前では多くの人が並んでいる状況であったが、個人的な移

動手段として、マイカーが定着してから、神山のバス停はもとより、公共交通自体の利用が減った。公共交通に対する抜本的な施策を展開していかないと厳しいのではないかと考える。他人事の問題ではなく、いずれ自分も社会的な弱者になるのだという意識で、参加していく必要があると思う。

【会長】

- 現在、富士急湘南バスの寄ルートの終点は寄（宇津茂）までとなっているが、土日、休日に限って、午前と午後に1本程度、県の水源林入口まで運行してはどうか。町民のためというよりは、ハイカー、登山者のように都会から入ってくる人の利便性ということになるかと思うが、お考えをお聞かせいただきたい。

【委員】

- 土日、休日に関して、ハイキングをする人が多いのは承知しているが、物理的な問題として、バスの反転するスペースがないので、難しい状況である。

【会長】

- 了解した。その他、特段の意見がなければ、会議を終了させていただきたい。

8 閉会

【副会長】

副会長あいさつ

以上